

学力調査における設問の要素を取り入れた授業改善

「相手に対して配慮を伴い、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を育成する授業

令和4年度コアティーチャープロジェクト部会小学校外国語部会

本授業は、「学力調査における設問の要素を取り入れた授業改善」として、授業改善を図ることを目的とした授業である。

令和3年度鹿児島学習定着度調査中学校外国語科の分析結果から「言語材料をコミュニケーション場面で使いこなす力を身に付けさせていない。」という課題が挙げられた。

授業改善のポイントとしては、「既習事項を自在に使いこなせるようになるには、それらをコミュニケーション場面で使う経験を繰り返す必要がある。身に付けるべき表現を使う必然性のある場面を設定した上で、誤りがあったら修正を加えながら徐々に表現の正確さを高めていく。」ことが挙げられている。「何のために」「誰に対して」などの目的を明確にしなが、コミュニケーション場面で英語を使う経験を繰り返す必要がある。これらのポイントを意識して、第6学年の Lesson 4 Welcome to Japan. を構想した。

ここでは、海外の方へ日本のことを紹介するという身に付けるべき表現を使う必然性のある場面を設定した。外国の方と交流する機会を通して、実際に英語を使ってコミュニケーションを取りながら相手に対して配慮を伴い、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けさせたい。